

みらいく木育レター

みらいくの木育テーマ

「自然と遊びながら 自然から学び 自然と共に心と体が育つ」



身边的草花で草木染あそび

2025.8

自然の色であそぼう

子どもたちとやりたいなあと思って、
試行錯誤しながら実験＆実験の8月。



え～～～！予想外な展開

みらいく木育ガイドブックに『色水あそび』がありますが、発展形として、身边的植物を使って子どもたちと草木染をやりたいなと思い、自分であれこれ実験してみました。子どもたちに正解を教えるためではなく、どうやったらワクワク感や、もっと知りたい！の気持ちや、探究心を湧き立たせることができるかな？これをやったら子どもたちは何を思うかな？の仮説を立てるため。そして安全確認のためでもあります。

今回は私の実験のいくつかを紹介します。まずは横須賀にある古民家を活用した自然豊かで素敵な学童の子どもたちと一緒に学んできた時のこと。採ってきた実をグツグツ煮込んで染液を作るとピンク寄りの明るい赤になりました。すでに濃染を済ませてある布を輪ゴムで縛ったりして模様ができる細工をし、「ピンクに染まるのかな？」とウキウキで液に布を付けました。菜箸で布をユラユラ揺らす子どもたちも一番期待していた色でした。ところが！時間を置いて水で濯ぐと、色が全部流れた！！え～！！これには大人も子どももびっくり＆がっかり。そこからは元の液に鉄媒染や銅媒染を入れて試してみたり、お酢を入れて酸性にしてみたり・・・理科の実験のように夢中になりました。まさに夏休みの自由研究です。

ヨモギ色って、どんな色？



こちらはヨモギ。今回使ったヨモギは草餅にするような柔らかいものじゃなくてビューンと伸び切って、もう暑くて参っちゃいそうという感じのを頭の先から茎の下まで。はさみでチョキチョキ細切れにして煮込むと、鮮やかとは言えない暗い緑色。と言うより黄緑色かな？媒染のためのミョウバンを後でも先でもなく一緒に入れちゃって、さてさてどうなる？もう1種類の草は葛。私の中ではどこにでも生えている雑草の代表格だと思っているけど、花や茎（つる）、葉、塊根（つまり全部）が薬や食用、繊維として使われてきた日本人にとってはとても関わりが多い草なので馬鹿にはできない。こちらはヨモギに比べて深い緑の染液になった。当たり前だけど、葉によって煮出した色が違うし、時期によっても変わららしい。染められる側の布によっても色の出方が変わるので、ウール、シルク、コットン、麻など同じ植物で染めても同じ色にはならない。一期一会で正解も失敗もないのが楽しいところかも。ちなみに、石油などを原料としている合成化学繊維（ポリエステルとか）と天然色素は相性が悪く染まらない。



教科書通りに草木染をやろうとすると、難しい言葉や道具が出てくるし、実は布の下準備もあるし、鍋でグツグツに出したり、間に待っている時間も色々ある。もっと手軽に子どもたちが楽しめる方法はないか。自分たちの発想を広げられる素材はないか。色々試して、みらいくほいくえん版を開発中。



みらいくver.開発中

上の3つは、煮出した染液と瓶、お日様の力を使って毛糸を染めたもの。優しい色合いの毛糸を使っておまかごができる。スパゲッティとお蕎麦と茶蕎麦？右の実験はタマネギの皮。煮出しをせずにお日様の熱だけで色を出すことができるかな？ガラスの瓶とプラスチック、ふたの種類や布の種類をかえて。



番外編

前回お話したゴーヤ。私たちが食べている緑色のゴーヤは、まだ成熟していない状態でにがみがあるけど、完熟するとこんな風に黄橙色で、中には赤くてゼリー状の果実が！こうなると甘いし、食べても美味しいらしい。種が熟すまでは苦く食べにくくして、熟したら自分から割れて実をアピール。これも鳥に食べて（運んで）もらうゴーヤの作戦？

